

霧島市地方創生有識者会議（第2回転入促進・転出抑制合同会議）要旨

開催日時	平成27年8月4日（火）13：30～17：00			
開催場所	国分総合福祉センター 2階 食堂兼会議室			
出席者	会議有識者部会	槐島研究部会長、福島研究副部会長、山元委員、山尾委員、鈴吉委員、小山委員、猿渡委員、古賀委員		
	専門推進本部	西溜部会長（中山間地域活性化G長）、寶徳副部会長（生活環境政策G長）、竹下委員（保健福祉政策G長）、濱崎委員（企業振興室長）、別當委員（建設政策G長）、宗像委員（観光PRG長）		
	事務局	堀切企画政策課長、松永企画政策課主任主事		
	その他	（株）鹿児島経済研究所 眞竹		
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数	3人
<p>会次第</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 「霧島市人口ビジョン（素案たたき台）」等について</li> <li>3 「基本目標別（素案たたき台）」について</li> <li>4 第1回合同会議の振り返りについて</li> <li>5 意見交換</li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>				
<p>意見交換の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光については、質が変わってきた（団体→個人、インバウンド）。外国人ビジネスを考えなければならない。また、着地型観光（体験型）の組織作りを検討しなければならない。転入促進の観点からは、大胆な提案になるが、出産費用を行政が免除できれば、間違いなく転入者は増えると考えます。</li> <li>○ 観光を通して、一次産業・二次産業・三次産業と連携していき、最終的には協会のようなもの立ち上げることが出来ればと考える。結果としてビジネスモデルを確立したい（例：現場レベルで教育できる養成所。）</li> <li>○ ITを駆使する必要がある（観光とITを上手く関連付ける必要がある）。マーケティングにつながるコーディネーターの発掘も必要。最近では、何かを教えたい人、何かを学びたい人の需要が増えてきている。何かを教えたい人を集め、その人たちをキーマンとして組織作りにつなげることが出来ると考える。また、行政は、コーディネーター、マーケッターを招聘し、住民に講座等の機会の場を与えることができると考える。</li> <li>○ アンケート等による現状分析も大事だが、市民が共通の理念を持つことが重要である。マーケティング3.0（消費者と企業が協働する価値主導のマーケティング）という考え方があるが、どうやって共感を売り出していけば良いかという視点を持って新しいコーディネート組織をつくるのが大事である。</li> <li>○ 周りから聞く意見として、「子どもたちや家族にとって国分・隼人は集えるところがない（動物園、水族館、アトラクションプール、映画館等）」。結果として、霧島市に住む選択肢が減る</li> </ul>				

と考える。また、地元企業を知っている人が少なく、県外に進学、就職したきりで霧島市に戻る機会を失っている。

- あるものを活用する観点だと、プールがないなら天降川など、霧島市が持っている自然を活用するという発想も大事である。
- 霧島だけが持っている価値を表すフレーズがあれば良い。たとえば「五感再生リゾート」。五感という切り口で個々の素材をメニューとして具現化していくと、どこのまちでもやっけないようなことが出来るのではと考える。
- 移住コンシェルジュは設置していただきたい。子育て世代への支援については、他の自治体より少しでも優遇するだけで転入者は増えると思う。また、出産費用の助成等で安心して出産できる体制を整えれば、転入者は増えると考え。観光については、Wi-Fi 環境と外国人を対象とした表示問題（最低三か国語）の改善等は必須だと考える。
- アンケート結果によると国分地域以外の転出者の転出理由として「交通の便」を挙げている割合が多いので、転出抑制のヒントは交通網の改善にあると考える。
- 観光に関しては、個人の外国人に優しい空港環境整備が必要。教育に関しては、大学と幼稚園等の連携体制が出来ればと考える。